

明治家 実業列伝 ⑪

富田 鉄之助 (下)

仙台市博物館 市史編さん室長 菅野正道



政界への進出

明治二十二(一八八九)年九月に富田鉄之助が日銀総裁の職を辞したのは、直接的には銀行政策をめぐる大蔵卿(大臣)松方正義との意見の相違が原因でした。同時にその背景には、当時の政財界において薩摩・長州出身者が実権を掌握するという、いわゆる「藩閥」があったのです。「朝敵」仙台藩出身の鉄之助が日本銀行総裁に就任したことに對する藩閥勢力の反感が、総裁辞任への大きな圧力となったことは間違いないようです。

しかし、鉄之助の人は、彼をそのままにしておきませんでした。鉄之助は、総裁辞任後間もない十一月に、東京市会議員、東京市麻布区会議員となり、翌年、国会が開設されると、貴族院の勅撰議員に推され、政界への進出を果たすことになりました。さらに明治



東華学校の建物 後に宮城県尋常中学校、宮城二女高などの校舎として用いられた。(資料提供：仙台市戦災復興記念館)

二十四年七月には東京府知事の職に就いたのです。これを知った仙台出身者の喜びは大きく、帝國ホテルで

仙台関係者が就任祝賀式を行った際は、参加者一同の「さんさ時雨」の大合唱が、ホテル中に響き渡ったと語り継がれています。知事として鉄之助が果たした最大の功績は、多摩地方を東京府に編入したことと評価されています。東京の水源地である多摩地方は、当時は神奈川県に属したため、衛生行政が徹底せず、大きな問題を生じていました。強硬な反対派もあり、鉄之助への暴行事件も発生しましたが、鉄之助は粘り強くこの課題に取り組み、ついに明治二十六年四月に多摩地方は東京府に編入されたのです。

「富国」への貢献

多摩編入を実現した半年後の明治二十六年十月、富田鉄之助は東京府知事を辞任しましたが、貴族院議員の地位は、晩年まで全うしました。金融政策、とくに銀行関連の審議で鉄之助が果たした役割は大きいものでした。また、日清戦争やその後の増税路線を藩閥政府の陰謀的なものとして厳しく批判し、産業振興による「富国」を強く主張しました。

鉄之助は、このような考えを政治の場で主張するだけでなく、さまざまな企業の創立、運営に関わり、身をもって実践しました。とくに、経済界もまた鉄之助を放つては置けなかった、と言った方が適切なようです。

鉄之助が関わった主な企業としては、富士紡績(創業時の取締役会長)、横浜火災保険(創業時の取締役社長)、日本鉄道(取締役)な

どがあります。いずれも、それぞれの分野で一流の大会社で、このほか、多くの銀行の経営にも鉄之助は相談役として関わりました。

出身地・仙台でも、七十七銀行が明治三十一年に国立銀行から民間銀行に転じた際は、鉄之助が全面的にバックアップしたと言われています。また鉄之助の助言によって伊達邦宗が設立した実験農場・養種園も、仙台での産業振興が具体化した一例でした。

後進の育成

産業振興による富国を常に意識した富田鉄之助のまなざしは、当然ながら人材育成にも強く注がれました。明治八年に森有礼によって創設された商法講習所は、現在の一橋大学の前身として知られていますが、そもそもその設立構想は、鉄之助の発案だったのです。

また鉄之助は、出身地である仙台へも大きな功績を残しました。その一つ、明治十九年設立の宮城英学校(翌年、東華学校と改称)は、鉄之助が新島襄や仙台の有力者等と設立した中等教育施設でした。東華学校は、明治二十五年に施設や職員、生徒を新設の宮城県尋常中学校に引き継ぎましたが、その伝統は仙台一中(旧制)、仙台一高へと受け継がれ、多くの人材を輩出することになります。

このほか鉄之助は、旧藩主・伊達家の家政を支援し、また仙台出身者の就学や就職にも援助を惜しまないなど、仙台に對する想いは格別だったようです。

鉄之助は、大正五(一九一六)年、八二歳で没しました。清廉一途であった鉄之助は、恩給や功労金の類を全く受けず、その功を誇ることも無かったため、その事跡は歴史の流れの中に埋もれかけています。しかし、それが鉄之助の本望だったのかもしれない。

仙台市史

好評発売中

通史編 7 近代 2

大正、昭和戦前期の仙台を1冊に凝縮

◆A5判 585頁 オールカラー ◆定価3000円(本体2858円)

お求め先 県内主要書店・仙台市博物館/株式会社宮城県教科書供給所 TEL.022-235-7181 FAX.022-235-7183
お問い合わせ先 仙台市博物館市史編さん室 〒980-0862 仙台市青葉区川内 26 番地 TEL.022-225-3074



明治33年(1900)創設の養種園は、富田鉄之助の助言で旧仙台藩主・伊達家が設けた実験農場。仙台白菜の品種改良、普及にも大きな役割を果たした。